

外国人著者名の典拠データについて

遠山 潤

A Review of Authority Data on Foreign Personal Names

Jun TOHYAMA

【要約】この論文は、筆者が指導教官を担当した卒業論文（鹿田奈未「大学図書館 OPAC における著者標目の実態」）を契機として、外国人著者名の典拠データの有り様についての調査を、国立国会図書館と米国議会図書館にも展開し、その内容を同一著者に対する標目数から標目形・典拠標目にまで拡張した結果をまとめたものである。そして、国立国会図書館にとって外国人著者名に関する典拠データの課題が、大きく4つに類型化されることを確かめた。

【キーワード】著者標目 著者名典拠 典拠コントロール OPAC 統制語

1. 目的

『17人のスティーヴンソン』（「TRC MARC 人名典拠録」編集部編 図書館流通センター1985）は、外国人のカナ表記にはさまざまな形があるためその現状を探るべく「1人の人物の名前の書き方が図書によって異なっている例を集めて一覧を作成」（序）したものである。その中の「データⅠ 図書における外国人名のカナ表記一覧」は、「図書表記の形が2種類以上ある著者について、同一人物毎に図書表記に使われた形を全て列記したもの」（凡例）である。

凡例の「図書表記の形が2種類以上ある著者」とは、

Arendt, Hannah ハナ・アーレント（みずず書房）
ハンナ・アーレント（中央公論社）

のように、日本語の翻訳図書でカタカナ表記が1つではなく、2種類以上ある著者という意味で、『17人のスティーヴンソン』という書名は、このカタカナ表記の数がもっとも多いのが Robert Louis Stevenson であり表記数17に及ぶところから付いた名前である。

鹿田奈未「大学図書館 OPAC における著者標目の実態 -外国人著者標目を事例として-」¹⁾は、この「データⅠ 図書における外国人名のカナ表記一覧」に掲載された著者名を基に個人著者1人あたりの著者標目の形・数と各標目毎の書誌数を調査したものである。

調査対象は、「データⅠ 図書における外国人名のカナ表記一覧」から、福岡県内にある久留米大学御井図書館・福岡大学図書館・西南学院大学図書館・九州大学附属図書館の4館すべてで所蔵しているものという条件付でサンプルを五十音順に抽出している。そのため、

アーヴィング、ワシントン Irving, Washington

から

キップリング、ジョーゼフ・ラディヤード Kipling, Joseph Rudyard

まで、姓がアからキの間で始まる人名100のリストが調査対象であり、日本の翻訳事情を反映してそのほとんどが西洋人である。（資料1参照）。

4大学のOPACは全て典拠データからの検索が不可のため、検索画面から原綴で著者名検索

をかけ、その結果表示されたすべてのリスト表示を開いて詳細表示し、その書誌データに付いている著者標目の形・件数・標目毎の書誌件数を記録している。

筆者は、この鹿田の調査を国立国会図書館（National Diet Library 以下、国立国会図書館またはNDLと記す）と米国議会図書館（以下、Library of Congress またはLCと記す）にも展開し、その内容も拡張してみた。そして、国立国会図書館のNDL-OPACとLibrary of CongressのLibrary of Congress Online Catalogに記録されている著者標目について調査した結果を基に、同一著者に対する標目数については福岡県内の4大学に関する鹿田の調査結果と比較対照し、同一著者に対する標目形・典拠標目についてはNDL-OPACとLibrary of Congress Online Catalogを相互に比較した。著者に関する典拠コントロールの実態を探り、その結果から著者標目に関するOPACの現状を解明することが本稿の目的である。

2. 同一著者に対する標目の数

1人の著者に対して与えた標目数の分布を、鹿田論文¹⁾と同一の100人に対し、NDL-OPACとLibrary of Congress Online Catalogを使って調べてみた。NDL-OPACでは、検索語一覧から著者を選択し、名のイニシャル形も含めて検索するために、例えばIrving, Washingtonの時はirving wと入力した。Library of Congress Online Catalogでは、Basic Searchの

Search Type: Author/Creator Browse

を選び、NDL-OPACと同様に、Irving, Washingtonの時にはirving wと入力した。

標目数別の著者数を、福岡県内4大学と比べてみれば次の表のとおりである（以下、久留米大・福岡大・西南学院大・九州大に関するデータはすべて鹿田論文¹⁾による）。

標目数	久留米大	福岡大	西南学院大	九州大	NDL	LC
1	23	17	18	55	3	44
2	22	26	24	36	35	37
3	23	15	21	8	22	11
4	20	17	15	0	12	6
5	9	14	6	1	5	2
6	2	4	11	0	6	0
7	1	3	2	0	4	0
8	0	2	0	0	2	0
9	0	2	1	0	3	0
10	0	0	1	0	1	0
11	0	0	1	0	1	0
12	0	0	0	0	1	0
15	0	0	0	0	1	0
18	0	0	0	0	2	0
29	0	0	0	0	1	0
48	0	0	0	0	1	0
計	100	100	100	100	100	100

福岡地区 4 大学と国立国会図書館, Library of Congress が 1 人の著者に対して与えた標目の最大数は, 昇順で九州大・Library of Congress (5), 久留米大 (7), 福岡大 (9), 西南学院大 (11), 国立国会図書館 (48) となり, 国立国会図書館がもっとも多い。また, 著者 1 名に対して与えられる著者標目の数が 1 である割合は, 国立国会図書館で 3%, Library of Congress で 44% である。このことは国立国会図書館では外国人の著者標目はほとんどの場合複数存在し, Library of Congress でも約半数は複数存在していることを意味している。

NDL-OPAC では, 検索語一覧による検索結果から, 1 人の著者に対し付いている複数の標目とそれぞれの標目に付いている書誌数が得られる。そして, それぞれの標目ごとに異なる書誌データ群がリンクによって開かれるという基本構造をもっている。

この複数の標目中で書誌数が最大のものがほとんどの場合 Web NDL Authorities (国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス) に掲載された典拠標目と同形の著者標目である。そこで, 検索語一覧から 1 人の著者に対し最大の書誌数をもつ標目について調べてみた。そして, 1 人の著者に付いている標目数と, その標目の中で最大の書誌数をもつ標目に付いている書誌数の平均値を算出してみた。

次に, Library of Congress についても, 同様に Library of Congress Online Catalog の標目数と, 標目に付いている書誌数の中の最大値を平均した数を出してみた。結果をまとめると, 次の表のとおりである。

標目数	NDL 最大書誌数の平均	LC 最大書誌数の平均
1	10.3	110.3
2	29.1	231.2
3	49.5	243
4	35	196.5
5	38.6	788
6	52.2	0
7	84.8	0
8	53.5	0
9	220	0
10	14	0
11	127	0
12	70	0
15	199	0
18	229.5	0
29	380	0
48	243	0

最大値である 48 件の事例については,

Andersen, H. C. (Hans Christian), 1805-1875 (標目形)
の標目形が書誌数 243 となっている。因みに, この著者の Web NDL Authorities に掲載された典拠標目は

Andersen, Hans Christian, 1805-1875

である。

標目数 10, 11, 12, 15 はそれぞれ事例が 1 件である点を考慮に入れば、著者に付く標目数が増えるとその標目に付く書誌数も増えるという一般的傾向を、国立国会図書館と Library of Congress に関して指摘することもできるだろう。

1 人の著者に対して与えた標目数の平均を、福岡地区 4 大学と国立国会図書館、Library of Congress に関して比較してみると、次のようになる。

	平均
久留米大	2.8
福岡大	3.31
西南学院大	3.29
九州大	1.56
NDL	4.78
LC	1.85

1 人の著者に対して与えた標目数の平均は、九州大 (1.56) がもっとも少なく、国立国会図書館 (4.78) がもっとも多い結果となっている。

また、著者 1 人に対して複数の著者標目が存在する割合は、次のとおりである。

	複数標目率
久留米大	77%
福岡大	83%
西南学院大	82%
九州大	45%
NDL	96%
LC	55%

著者 1 人に対して著者標目が複数存在する割合についても、九州大 (45%) がもっとも少なく、国立国会図書館 (96%) がもっとも多い結果となっている。

1 人の著者に対して標目はこのように複数存在していて、今回調査した OPAC のすべてにこの現状は共通している。が、その複数存在する著者標目に付いている書誌データ間の相互関係は OPAC によってやや事情が異なる。鹿田の調査によれば、西南学院大は異なる標目形から同一書誌が得られる場合が多く、福岡大学は同一書誌の他に書誌間の包含関係も数多く見られる。九州大学も書誌間の同一関係・包含関係が一部見られる。久留米大学ではこのような書誌間の同一関係・包含関係は見られない。¹⁾

国立国会図書館では、異なる標目間で件数・データ共に同一書誌である場合が一部見られた。これは例えば、検索語一覧で「著者」を選択したときの検索結果が

書誌数	著者
6	Améry, Jean, 1912-1978 Amery, Jean.
6	Amery, Jean, 1912-1978 -

6 Amery, Jean, 1912-1978 -

のように表示される場合である。いずれも書誌数6であり、その書誌データも同一である。見て分かる通り、この著者標目3件の中の2件は標目形自体が同一の関係にある。3標目のうち1件は||の後に姓、名を繰り返したもので、2件は同一標目形という結果が同様に表れるのは全部で9例あり、他の8例を Web NDL Authorities に掲載された標目形で表示すると次のとおりである。

Eibl-Eibesfeldt, Irenäus, 1928-
 Gág, Wanda, 1893-1946
 García Márquez, Gabriel, 1928-
 Hécaen, Henri, 1912-
 Kierkegaard, Søren Aabye, 1813-1855
 Ortega y Gasset, José, 1883-1955
 Valéry, Paul Ambroise, 1871-1945
 Weizsäcker, Carl Friedrich, Freiherr von, 1912-2007

この9名には、すべて名前の中に

é ä á í ø

のような母音に記号を付けた文字、いわゆる変母音が共通して含まれていることから、こうした文字を処理する際に発生した現象と考えられる。

同一著者の異なる標目形から得られた複数の書誌データ間に包含関係が見られる場合、検索者にとって混乱することはあっても利益を得ることは考えにくい。しかし、同一著者の異なる標目形から得られた複数の書誌データが件数・内容共に同じ場合には、検索者は標目形の違いによる実質的な不利益を被ることは少ないかもしれない。このように仮定して、同一結果が得られる複数の標目形をまとめて実質的標目1件と見なした場合、1人の著者に対する実質的標目の平均数は、次のとおりとなる（福岡県内4大学に関しては、鹿田の論文¹⁾を基に筆者が算出した）。

	平均	実質的標目平均	増減
久留米大	2.8	2.8	100%
福岡大	3.31	2.85	86%
西南学院大	3.29	1.55	47%
九州大	1.56	1.47	94%
NDL	4.78	4.60	96%
LC	1.85	1.85	100%

実質的標目平均について見た場合、1人の著者に対して与えた標目数は、九州大(1.47)がもっとも少なく、国立国会図書館(4.60)がもっとも多い結果となる。異形の著者標目から同一の書誌へとリンクされる率は、西南学院大がもっとも高く、次いで福岡大の順となる。九州大学、国立国会図書館は、数パーセントと比較的少なく、久留米大、Library of Congressはそうした

現象が見られない。

この結果から、国立国会図書館の著者標目に関する著者名典拠コントロールは Library of Congress と比較した時、相対的にはうまくいっていないと言えるだろう。そして、福岡県地区の4大学と比べても同様のことを指摘することができるかもしれない。しかし、使い勝手という点で福岡県4大学に比べ劣っているかと言えば、必ずしもそうではない。その理由は、第1に WebNDL Authorities が用意されていることである。第2は、検索プロセスの中で「検索語一覧」を使って著者名検索を行うと著者標目リスト一覧が表示され、その中から選択できるシステムになっていることである。これは、検索経路の途中で著者名の形が明示されることによる効果と思われる。しかし、このことはまた、WebNDL Authorities や「検索語一覧」を使わず、「簡易検索」「詳細検索」だけを頼りに検索している利用者にとってそのメリットは体感できないということも意味している。

3. 同一著者に対する標目の形

『日本目録規則 1987年版改訂3版』によれば、著者標目は、「著者名典拠ファイルに基づく統制された形をとる。」(用語解説)と定められている。これは、図書等の資料にさまざまな形で表示されている名前が記述中にそのまま反映され転記されていても著者標目では1人の人物に対し1つの統一された形を中心的形態として採用するという意味であるが、前節で見たとおり OPAC データベースの中では著者と著者名との間には

1対n(多)

という関係が、半数以上の著者について成り立っている。

本節では前節で見た100人の著者について、国立国会図書館と Library of Congress ではどのような著者標目の形の変化を与えているのか、その変化の形はどのような種類に分けられ、それぞれの種類は量的にどのように分布しているのかについて調べてみた。

3.1 国立国会図書館

国立国会図書館の場合、調査方法は、まず国立国会図書館サーチの WebNDL Authorities に入り、キーワード検索の

「名称のみ」

を選択して、前節で実施した NDL-OPAC の検索語一覧と同じ検索内容で100件の検索を実施した。そして、WebNDL Authorities の検索結果から得られた著者の典拠標目を基本に、NDL-OPAC の検索語一覧から検索した結果得られた複数の著者標目と比較して典拠標目との形の相違点を探し出し、その相違点を種類別に区分した。1つの著者標目に複数の相違点が混在している場合は、相違点ごとに数えた。つまり、カウントしたのは標目ではなく典拠標目と標目の変化形(典拠標目と異なる部分を持つ標目)との差異の数である。

その結果、典拠標目は著者数と同じ100、著者標目数の合計は480、延べ相違数は412となった。以下に412の相違点を5グループに分け、それぞれの相違点について、典拠標目と事例を対照的に示すと次の表のとおりである([A]は典拠標目を表す)。

典拠標目との相違点	相違数	事例（[A] は典拠標目）
A（生没年）		
A1 生年没年なし	42	[A] Yeats, William Butler, 1865-1939 Yeats, William Butler.
A2 生年なし	20	[A] Updike, John, 1932- Updike, John.
A3 没年なし	13	[A] Whymper, Edward, 1840-1911 Whymper, Edward, 1840-
A4 生年没年あり	1	[A] Andrzejewski, Jerzy Andrzejewski, Jerzy, 1909-1983.
A5 没年あり	1	[A] Gardner, Martin, 1914- Gardner, Martin, 1914-2010.
B（追加）		
B1 +タイトル	192	[A] Walton, Izaak, 1593-1683 Walton, Izaak, 1593-1683. Compleat angler.
B2 + .	38	[A] Irving, Washington, 1783-1859 Irving, Washington, 1783-1859.
B3 +他の著者	20	[A] Arendt, Hannah, 1906-1975 Arendt, Hannah. Karl Jaspers.
B4 + 姓名	9	[A] Améry, Jean, 1912-1978 Améry, Jean, 1912-1978 Amery, Jean.
B5 + カタカナ	5	[A] Valéry, Paul Ambroise, 1871-1945 Valéry, Paul ヴァレリー, ポール
C（中間名）		
C1 ミドルネーム	12	[A] Valéry, Paul Ambroise, 1871-1945 Valéry, Paul, 1871-1945.
C2 イニシアル	29	[A] Wells, Herbert George, 1866-1946 Wells, H. G. (Herbert George), 1866-1946.
D（文字）		
D1 スペリング	3	[A] AEsopus Aesop.
D2 変母音	9	[A] Ortega y Gasset, José, 1883-1955 Ortega y Gasset, Jose. , 1883-1955
E（その他）		
E1 合同	9	[A] Ortega y Gasset, José, 1883-1955 Ortega y Gasset, Jose. , 1883-1955
E2 同形	7	[A] Wilson, Colin, 1931- Wilson, Colin, 1931-
E3 誤記	2	[A] Wells, Herbert George, 1866-1946 Wells, H.G. (Herbert George) , 1966-1946.
合計	412	

以下、各項目別に解説する。

A (生没年) 典拠標目と姓名は同形で、生没年のどこかに異同がある。

- A1 典拠標目と比べて生年没年が共に付いていない。
- A2 典拠標目と比べて生年が付いていない。
- A3 典拠標目と比べて没年が付いていない。
- A4 典拠標目と比べて生年没年が共に付いている。
- A5 典拠標目と比べて没年が付いている。

B (追加) 末尾に典拠標目には無い何かが付いている。

B1 典拠標目の後にタイトルが付いている。この標目は192件と際だって多く、もしこの標目が無かったら前節で見た1人の著者に対し与えた標目数の平均は4.78から2.88に減少する。この192件の標目に付いている書誌数は、1が167件、次いで2が15件、3が5件、4が1件、5が2件、7が1件、16が1件となっている。標目1件に書誌1件が対応しているものが全体の87%となっていて、これらはすべて個人著者標目がタイトル毎に作られていることとなる。著者別に見ると

Andersen, H. C. (Hans Christian), 1805-1875

が一番多く43件(22%)である。

B2 典拠標目の後に(ピリオド)が付いている。典拠標目が和書、ピリオドの付いた標目形が洋書である。

B3 典拠標目の後に他の著者、訳者などが付いている。

B4 典拠標目の後に||を付けて姓名を繰り返す。ただし、典拠標目はすべて変母音(é ä á í ø)を伴う例で||の後は変母音なし(eaio)の母音表記となっている。この9例は、全部前節で紹介した変母音の事例と同一である。

B5 典拠標目の後に||を付けて姓名のカタカナ形が付いている。

C (中間名) 中間名は欧米での名称によく使われるもので、個人名(ファーストネームまたはクリスチャンネーム)と姓(ラストネームまたはファミリーネーム)の中間に位置する名で頭文字で表されることが多い。

C1 中間名(ミドルネーム)の有無に係わる相違

C2 中間名(ミドルネーム)のイニシャル表記の有無に係わる相違。典拠標目にイニシャルが含まれる例が9件あった。その中で参照が付いていたのは次の1件である。

Adorno, Theodor Wiesengrund -

→: Adorno, Theodor W, 1903-1969

D (文字) 欧米語を表記するときの文字とその並びにかんするもの。

D1 典拠標目と人名表記の際のスピングが異なる。

D2 典拠標目と変母音の有無による違いがある。

E (その他) 上記の型に当てはまらないもの。

E1 典拠標目の他に同形(変母音なしという点だけが典拠標目とは異なる)が2件存在し、その2件同士は互いに同形(変母音なしという点を含めて同一)で書誌数・書誌データともに同一のもの。全て変母音(é ä á í ø)を伴うもので、B4・D2と同じ事例である。

E2 典拠標目と同形であるが、書誌件数が異なる。この7例はすべて生年のみが付いていて、B2と同様に和書と洋書に書誌データが分かれている。B2の38例は生没年があり、洋書に

(ピリオド)が付いていたが、生年のみのため、(ピリオド)が付かず同形となったものと考えられる。

E3 明らかな誤記。

以上をまとめてみると、相違数総合計 412 の種類別内訳は次のとおりである。

A (生没年)	77	(18.7%)
B (追加)	264	(64.1%)
C (中間名)	41	(9.9%)
D (文字)	12	(2.9%)
E (その他)	18	(4.4%)
	412	(100%)

以上により、国立国会図書館のNDL-OPACの著者標目に関して次のことが言える。つまり、著者の典拠標目に比べ著者標目の形が変化する要因として重大なものから順に並べてみると、第1にタイトル・ピリオド・他の著者等の追加であり、第2に生没年の有無であり、第3にイニシャルを含めた中間名であり、第4に変母音を含めた文字の綴りであり、最後にその他が来ている。

3. 2 Library of Congress

Library of Congressの場合、調査方法は、まずLibrary of Congress AuthoritiesのSearch AuthoritiesからAuthority Headings Searchに入り、

Search Type : Name Authority Headings

に設定した上で、国立国会図書館NDL-OPACのWeb NDL Authoritiesと同様に、100件の検索を実施した。

このLibrary of Congress Authoritiesによる検索については、まず検索実行上の問題点を一言述べておく必要がある。それは、Web NDL Authoritiesを使った検索とは異なる不安定さがあったということである。Web NDL Authoritiesでは、必ず1件の著者の典拠標目へと導かれる経路であったが、Library of Congress Authoritiesでは、検索結果画面に

Authorized Heading

のアイコンが付いていてリンクによりPersonal name headingが表示される形式へ導かれるフォームの時と、導かれない別のフォームの時と、リスト形式表示が2種類存在していたということである。同一条件で数回検索をかけていくうちに1つの表示形式からもう一つの表示形式に変化するということもあった。理由は不明だが、安定しなかった。

そこで、Personal name headingが表示された場合はその形を典拠標目とし、そうでない場合はWeb NDL Authoritiesの典拠標目と姓名・生没年で比較照合しながら

Bib Records (書誌数)

が最大のものを典拠標目と見なした。そして、Library of Congress Online CatalogのBasic Searchに入り、

Search Type : Author/Creator Browse (enter last name first)

に設定した上で、NDL-OPACと同様の検索をかけ、その結果得られた複数の著者標目を典拠標目と比較し、相違点による区分を行った。1つの著者標目に複数の相違点が混在している場合は、相違点ごとに数えた。その結果、典拠標目は著者数と同じ100、著者標目数の合計は186、相違数は延べ128となった。以下に128の相違点を5グループに分けて列挙し、それぞれの相違点について、典拠標目と事例を示す（[A]は典拠標目を表す）。

典拠標目との相違点	相違数	事例（[A]は典拠標目）
A（生没年）		
A1 生年没年なし	31	[A] Wittgenstein, Ludwig, 1889-1951 Wittgenstein, Ludwig.
A2 生年なし	6	[A] Wouk, Herman, 1915- Wouk, Herman.
A3 没年なし	8	[A] Kardelj, Edvard, 1910-1979 Kardelj, Edvard, 1910-
A4 生年没年あり	2	[A] Eckstein, Otto Eckstein, Otto G., 1864-1905. [from old catalog]
A5 生年あり	8	[A] Calhoun, Mary Calhoun, Mary, 1915-
B（追加）		
B1 +[from old catalog]	35	[A] Gardner, Richard A. Gardner, Richard A. [from old catalog]
B2 +, 姓名	2	[A] Aesop Aesop, Aesop.
B3 + translator	1	[A] Valéry, Paul, 1871-1945 Valéry, Paul, 1871-1945, translator.
B4 +(Spirit)	1	[A] Irving, Washington, 1783-1859 Irving, Washington, 1783-1859 (Spirit)
B5 + lyricist	1	[A] Verlaine, Paul, 1844-1896 Verlaine, Paul, lyricist. [from old catalog]
B6 + Unknown	1	[A] Kissinger, Henry, 1923- Kissinger, Henry Unknown.
C（中間名）		
C1 ミドルネーム	11	[A] Curtis, Gerald L. Curtis, Gerald
C2 イニシアル	9	[A] Adamson, Joy Adamson, J.
C3 フルスベル	5	[A] Wells, H. G. (Herbert George), 1866-1946 Wells, H. G., 1866-1946
D（文字）		
D1 スペリング	4	[A] Engels, Friedrich, 1820-1895 Engels, Frederick.

D2 変母音	2	[A] Weizsäcker, Carl Friedrich, Freiherr von, 1912-2007 Weizsacker, (Carl)> [from old catalog]
E (その他)		
E1 誤記	1	[A] Hécaen, Henry, 1912-1983 Hécaen, Henry, 1912-9183.
<hr/>		
合計	128	

以下、国立国会図書館と重複する項目についての説明は省き、Library of Congress だけに存在する項目について解説する。

- B1 著者標目の最後に [from old catalog] が付いている。
- B2 著者標目の最後に、(カンマ) が付いていて、著者の姓名を繰り返す。
- B3 著者標目の最後に translater が付いている。
- B4 著者標目の最後に (Spirit) が付いている。
- B5 著者標目の最後に lyricist が付いている。
- B6 著者標目の最後に Unknown が付いている。
- C3 フルスペルの有無に係わる相違

相違数の総合計 128 を種類別内訳で表せば次のとおりである。

A (生没年)	55	(43.0%)
B (追加)	41	(32.0%)
C (中間名)	25	(19.5%)
D (文字)	6	(4.7%)
E (その他)	1	(0.8%)
<hr/>		
	128	(100%)

以上により、Library of Congress の Library of Congress Online Catalog の著者標目に関して次のことが言える。つまり、著者の典拠標目に比べて著者標目の形が変化する要因として重大なものから順に並べてみると、第1に生没年の有無であり、第2に [from old catalog] 等の追加であり、第3にイニシャルを含めた中間名であり、第4に変母音を含めた文字の綴りであり、最後にその他という順であることが分かる。

鹿田によれば福岡県内4大学の場合、1人の著者に対し標目形が複数存在する主な原因として、4大学共通に生没年の有無(生没年有り・生年のみ・生没年無しの違い)が挙げられる。この他に、久留米大・西南学院大ではヨミの有無(原綴に全大文字の原綴が振り仮名のように付く)があり、福岡大・西南学院大では姓と名の間のスペースの有無であった。九州大学は国立情報学研究所が提供する CiNii Books のID番号を付けているが、生没年の有無以外にこの番号の有無がある。¹⁾

NDL-OPAC で特徴的なことは、相違点の過半数(264件 64%)を典拠標目の末尾に何らか

のデータを「追加」したものが占めていることである。中でも「+タイトル」(192件「追加」の73%)は個人著者標目の最後にタイトルを付けたもので192件中86%が書誌数1件であった。また、「+.」(38件「追加」の14%)はすべて典拠標目と和書・洋書の関係で分かれている。そして、「+他の著者」(20件「追加」の8%)は個人著者標目の最後に共著者などを付けている。

Library of Congress Online Catalogに特徴的なことは、「追加」(41件 32%)の中で一番多いのが[from old catalog](35件「追加」の85%)であることである。この場合、個人著者標目の最後にこうした表示があることで情報源が明示され、標目としては別個に立てられていても区別されている理由が理解しやすいという一面があるように思う。

NDL-OPACとLibrary of Congress Online Catalogの結果を比較した場合、NDL-OPACは第1位「追加」・第2位「生没年」・第3位「中間名」の順、Library of Congress Online Catalogは第1位「生没年」・第2位「追加」・第3位「中間名」の順となり、第1位と第2位は逆転しているが、この3要素が1人の著者に対し複数の標目を与える主な要因であると見なしてよいという点では共通している。

この3要素については次のようなことが指摘される。まず、「生没年」については、標目に「生没年」を付けることで人名は同定識別能力が飛躍的に向上するが、その管理は国立国会図書館、Library of Congressともに完全なものとは言えないということがわかる。第2に、「追加」については、標目の姓名・生没年の後に、国立国会図書館はタイトル、Library of Congressは[from old catalog]を付けることで多くの変形を生み出していることがわかる。第3に、「中間名」については、ミドルネームをもつ著者に対し記載の有無やその表記法がイニシャル形かフルスペルかの違いが変形を生み出しているということがわかる。

そうして、個人著者1名に対して与えられる著者標目の形が変化する要因には一定の型があり、国立国会図書館とLibrary of Congressにおいても、同型の要因により著者標目のさまざまな変形を生み出していると言うことができる。

4. 同一著者に対する典拠標目の違い

国立国会図書館のWeb NDL AuthoritiesとLibrary of CongressのLibrary of Congress Authoritiesは、共に人名の典拠コントロールに使われる典拠ファイルである。前節では典拠ファイル中の個人著者名の典拠標目と書誌データへのリンクが付いた著者標目との形の違いに目を留めてみた。

本節では、これら2つの典拠ファイルが前節の100人に与えている典拠標目を調べ、そして、同一人物に対する2つのOPACの2典拠標目間に相違点があるのかないのか、もし違いが見られた場合にそれはどのような違いなのかを見してみる。

同一人物(厳密に言えば同一人物であると見なした人物)に対して与えられたWeb NDL AuthoritiesとLibrary of Congress Authoritiesの典拠標目の間に相違点が見られた場合、その相違を種類別に区別し、それぞれの種類ごとに標目数ではなく延べ差異数を出してみた。結果の集計は以下のとおりである。(詳細は資料1参照)

典拠標目間の相違点	NDL・LC	延べ数
A (生没年)		
A1 生年没年	有・無	11

A2	生年没年	無・有	1
A3	生年	有・無	14
A4	生年	無・有	0
A5	没年	有・無	0
A6	没年	無・有	2
B (追加)			
B1	+	有・無	0
B2	+	無・有	9
C (中間名)			
C1	ミドルネーム	有・無	7
C2	ミドルネーム	無・有	0
C3	イニシアル	有・無	0
C4	イニシアル	無・有	10
D (文字)			
D1	スペリング	相違有	2
D2	変母音	有・無	0
D3	変母音	無・有	4
合計			60

以下、各要因ごとに両者の代表的事例を示しながら比較して説明する。

A (生没年)

生年・生年没年に関しては、NDL-OPAC が (可能な限りだろうが) 付ける傾向にあり、Library of Congress Online Catalog は (付けているものも多いが) 比較的に見た場合省略する傾向にある。

(NDL-OPAC)	(Library of Congress Online Catalog)
Ende, Michael, 1929–1995	Ende, Michael
Venturi, Franco, 1914–	Venturi, Franco

B (追加)

+, (ピリオド) はすべてミドルネームのイニシアル形に付けられたものである。NDL-OPAC はすべて付いていないが、Library of Congress Online Catalog はすべて付いている。

(NDL-OPAC)	(Library of Congress Online Catalog)
Athos, Anthony G	Athos, Anthony G.

C (中間名)

ミドルネーム自体は NDL-OPAC の方が比較的付けられる傾向にあるが、ミドルネームを付けた時のイニシアル形については Library of Congress Online Catalog の方が積極的に導入して

いる。

(NDL-OPAC)	(Library of Congress Online Catalog)
Valéry, Paul Ambroise, 1871-1945	Valéry, Paul, 1871-1945
Eliot, Thomas Stearns, 1888-1965	Eliot, T. S. (Thomas Stearns), 1888-1965

D (文字)

スペリングの相違は

(NDL-OPAC)	(Library of Congress Online Catalog)
AEsopus	Aesop
Kazantzakes, Nikos, 1883-1957	Kazantzakis, Nikos, 1883-1957

の2件であり、アルファベットの綴りに食い違いが見られる事例で、翻訳・翻字の仕方に関係すると考えられる。

変母音については、Library of Congress Online Catalogでそのまま表記されているがNDL-OPACでは変母音なしの母音に置き換えられているという相違の見られる事例が4件あり、以下のとおりである。

(NDL-OPAC)	(Library of Congress Online Catalog)
Aitmatov, Chingiz, 1928-	Aitmatov, Chingiz
Vygotskii, Lev Semenovich, 1896-1934	Vygotskii, L. S. (Lev Semenovich), 1896-1934
Eluard, Paul, 1895-1952	Éluard, Paul, 1895-1952
Ostrovskii, Nikolai Alekseevich, 1904-1937	Ostrovskii, Nikolai

すでに述べたように、合計60件は延べ数であるが、典拠標目数として数えてみると51件となる。このことから、NDL-OPACとLibrary of Congress Online Catalogの著者名典拠ファイルは、100名の個人著者名の典拠標目形100件の中で51%になんらかの相違が見られたことになる。そして、互いの相違点については、各著者名典拠ファイル内の典拠標目形とその変化形との間に見られる相違と同型の要因によるものであるということがわかる。つまり、OPACの著者標目の場合、同一システム内の差異と異なるシステム間の差異との間に型(パターン)上の違いは少なく、むしろ同型として捉えられるということであろう。

1つ気付いた点がある。Library of Congress Online CatalogとLibrary of Congress Authoritiesの検索結果は同じ著者標目形が表示される。つまり、典拠標目とその異形である標目形が双方ですべて表示される。しかし、NDL-OPACとWeb NDL Authoritiesの検索結果は同じではない。つまり、NDL-OPACの「検索語一覧」で得られる著者標目形は今回の調査のとおりさまざまな変化形が混在するが、Web NDL Authoritiesはその中の典拠標目1つしか表示しない。このことをGeorge Orwellの例を挙げて説明してみる。まず、Library of Congressでは次のように表示される。

Library of Congress Online Catalog

(Hits) Headings (Select to View Titles) (Type of Heading)

5	Orwell, George.	personal name
141	Orwell, George, 1903-1950	personal name

Library of Congress Authorities

(Bib Records) (select icon in first column to... (Type of Heading)
View Authority Headings/References)

<input type="checkbox"/>	5	Orwell, George.	personal name
<input type="checkbox"/>	143	Orwell, George, 1903-1950	personal name

どちらもほぼ同じような個人著者に関する標目の形のゆれの現状をそのまま表現している。この画面から

 Authorized heading

のアイコンをクリックすると、次ような ID 番号以下の著者に関する情報が表示される。そして、ここから先へ進んで書誌データへ導かれるということはない。

LC control no.: n 79058639

LCCN permalink: <http://lccn.loc.gov/n79058639>

LC classification: PR6029.R8

Personal name heading: Orwell, George, 1903-1950

Variant(s): A`rave`la, Jorja, 1903-1950

Blair, Eric Arthur, 1903-1950

Oruel, G., 1903-1950

Oravëla, Jyorja, 1903-1950

Orvel, Džordž, 1903-1950

Oryel, G'org', 1903-1950

Oruell, Dzhordzh, 1903-1950

Oruel, Dzhordzh, 1903-1950

Årvel, Jārji, 1903-1950

Ôweru, Jōji, 1903-1950

Ūrvil, Jurj, 1903-1950

Jārj Årvil, 1903-1950 [以下, 省略]

これに対し、国立国会図書館では次のように表示される。

NDL-OPAC 「検索語一覧」

書誌数	著者
47	Orwell, George, 1903-1950.

- 65 Orwell, George, 1903-1950-
 1 Orwell, George, 1903-1950. Nineteen eighty-four.

Web NDL Authorities

Orwell, George, 1903-1950

ID 00451859

標目 Orwell, George, 1903-1950

別名 (を見よ参照) オーウェル, ジョージ; オウエル, ジョージ; Blair, Eric Arthur (本名)

生年 1903

没年 1950

出典 アニマル・ファーム [以下, 省略]

NDL-OPAC「検索語一覧」による検索結果はNDL-OPACの著者標目に変化形がこれだけ存在するということを示すものとなっているが、Web NDL Authoritiesはそれらの中から1つとりだしてこの形を典拠標目とするということを示し、ID番号以下の典拠標目に関する情報が表示される。そして、この表示画面に

以下のリンクボタンから国立国会図書館サーチで検索ができます。

[著者名検索](#)

というリンクが張られていて、

[著者名検索](#)

をクリックすると、NDL-OPACではなく今度は「国立国会図書館サーチ」(NDL Search)の検索結果画面が表示される。

問題は、この時点で表示される書誌データの件数が65件であり、そのすべてが和書であること、そして書誌数47件をもっている洋書の方へは導かれられないことである。「国立国会図書館サーチ」(NDL Search)は、2012年1月6日に正式サービスとなった国立国会図書館の新しい検索サービスである。その中で、Web NDL Authoritiesは、国立国会図書館が維持する典拠データを一元的に検索・提供するサービスである、とされているが、この点に関して課題が残っていると言いうことができるだろう。

5. まとめ

今回の調査によってLibrary of Congress Online Catalogでも文字のスペリングや変母音の処理に変化形(variant)の要因が見られ、著者標目に関しては翻字・翻訳という問題が存在しているということが分かった。また、著者標目の変化形(variant)は、(主として)西洋人の個人著者に関して国立国会図書館とLibrary of Congressの両方で比較的類似したばらつきを示しているということ、そして問題箇所はいくつかのパターンに類型化されることが確かめられた。

NDL-OPACについて言えば、主として西洋人の個人著者に関する標目の現状を調査したということは洋書と日本語翻訳図書原著者について調べたことになる。本稿の冒頭で紹介した『17人のステイーヴンソン』を見てもわかるとおり、(主として)西洋人のカタカナ表記は変化形(variant)が多く典拠標目は原綴りに頼るしかない。日本人の著者標目に関しては、読み

が大きな課題だとされているが、外国人に関してはまた別の問題が存在することになる。

日本人にとって通常原綴りというのは調べないとわからない場合が多い。自分が知っている著者のカタカナ表記（着想語）からスタートしてその著者の図書に関する書誌データ（自然語）を探すというのが一般的な検索であり、その際漏れなく排他的に書誌データ（自然語）を参照するには著者標目（統制語）が必要であるというのが、著者名に関する典拠コントロールの基本的な考え方である。

「表記に差異があるが、実体が同一であるもの」を集中し、「表記が同一であるが、実体が異なるもの」を排他するために著者標目や件名標目が付与される。これらの標目を統制するために、名称、別称、初出資料等の情報を1つにまとめたのが典拠レコードである。²⁾

著者名を対象とする著者名典拠コントロールの場合、目録データベース中では、アクセスポイントとなる著者名が、ある1つの統一された形で記述される。この形を典拠形と呼び、その他の形（統一された著者名以外の別号）を参照形と呼ぶと、ある著者名に関するデータ要素は、典拠形、参照形、および典拠形を定めるために用いられた情報源の注記などからなる。³⁾

これらの規定表現には「同一」「1つ」「統一」というように「1」という文字が共通して含まれている。人名は個人性・個性・個性（individuality）を表すものであり、文字通り「分けること（dividual）できない（in）」もの、唯一のものである。例えば、検索者は小林秀雄の文芸評論を読みたいと思ったとき、10人以上の小林秀雄という名前の持ち主が国立国会図書館に本を納めているということを通定想定していない。そして、検索経路のどこかの段階で可視化されるまではそのこと自体が未知の情報であり、小林秀雄という1つの名前でも「あの」小林秀雄を探し出そうとするのである。

この著者の「1」を著者の名前前でどう処理するかという課題は、図書のOPACだけでなく雑誌論文等を含めた著作物のデータ管理にも共通している。

名古屋大学では大学内研究者の著者名というアクセスポイントを整備する作業の中で「著者名を統一的にコントロールする作業は非常に労力がかかる」⁴⁾という事実を踏まえ、「著者名典拠のようなしくみをシステムの外部につくり、そのしくみの中で、システム内の著者名の揺らぎとともに、システム間の著者名の揺らぎをも吸収できないか」⁴⁾と考えて著者名典拠ディレクトリシステムを開発している。そのシステムについて、「表記のゆらぎを持った著者名をそのまま扱うことが可能なしくみである。いわゆる著者名典拠のように、異なる表記からコントロールされた表記を参照でき、さらに著作一覧のリンクをたどることができる。」⁴⁾ものであることが報告されている。著者名には一定の「揺らぎ」すなわち変化形（variant）があり、それを統制するというよりはたんにグループ化する機能として典拠概念をとらえている。「著者名のゆらぎ」は漢字・ローマ字などの表記が混在する日本人名を例として取り上げられているが、当然外国人研究者のイニシャル形の問題もこの概念の中には含まれることになる。

カード目録からOPACへと移行したことにより記述部分による検索の幅が拡大した。そのため典拠コントロールは「完璧（に近い形）を期してはじめて効果が出るという難しさがある」⁵⁾のだが、今のOPACの統一標目は、仮に「システム内で精密に運用していても、システムを超えた相互運用性は保証されない」⁵⁾というのが現状である。

FRAD は、統制形アクセスポイント (controlled access point) が「統一標目にあたる『典拠形アクセスポイント (authorized access point)』と参照にあたる『異形アクセスポイント (variant access point)』を包含するもの」⁵⁾と規定している。この議論の中では、「著作の集中」「統一標目」「典拠標目」といった従来の古典的な標目概念が再定義され、リンク機能による「名寄せ」⁵⁾のようなゆるやかな結合体になっていくことになる。FRBR が文字列自体を表現形 (Expression) として実体化し、「さまざまな表現形の間での内容の共通性」⁶⁾という「抽象的な実体」⁶⁾として著作 (work) が切り分けられることになると、目録データベースは体現形 (manifestation) という物体と個人著者 (person) という人物の2つの具体的実体を両端にもつ紡錘形のようなイメージで構想されるようになる。その場合、「著者」というものに対して、個人性・個性・個性 (individuality) という、いわば「比例感」の保証・担保がこれまでより稀薄化することも予想される。

注

- 1) 鹿田奈未 大学図書館 OPAC における著者標目の実態 -外国人著者標目を事例として- (久留米大学文学部情報社会学科平成 23 年度卒業論文)
- 2) 神崎正英・佐藤良 国立国会図書館の典拠データ提供におけるセマンティックウェブ対応について 情報の科学と技術 61 巻 11 号 2011 pp453-459
- 3) 三浦敬子・松井幸子 欧米における著者名典拠ファイルの共同作成の動向 日本図書館情報学会誌 Vol.47 No.1 2001 pp29-41
- 4) 棚橋是之・山本哲也・梶田健史・次良丸章 システム間連結のための著者名典拠ディレクトリシステムの開発
- 5) 渡邊隆弘 典拠コントロールの現状と将来 情報の科学と技術 60 巻 9 号 2010 pp371-377
- 6) 和中幹雄・古川肇・永田治樹 書誌レコードの機能要件 IFLA 書誌レコード機能要件研究グループ最終報告

※国立国会図書館と Library of Congress へのアクセス期間は 2012. 1. 22~2012. 2. 5 である。

資料 1

国立国会図書館	米国議会図書館	差異
Adamson, Joy, 1910-1980	Adamson, Joy	, 1910-1980
Adler, Alfred, 1870-1937	Adler, Alfred, 1870-1937	
Adorno, Theodor W, 1903-1969	Adorno, Theodor W., 1903-1969	. (ピリオド)
AEsopus	Aesop	<u>AEsopus</u>
Aitmatov, Chingiz, 1928-	Aitmatov, Chingiz	i , 1928-
Alcott, Louisa May, 1832-1888	Alcott, Louisa May, 1832-1888	
Allport, Gordon Willard, 1897-1967	Allport, Gordon W. (Gordon Willard), 1897-1967	W. ()
Althusser, Louis, 1918-1990	Althusser, Louis, 1918-1990	
Ambler, Eric, 1909-1998	Ambler, Eric, 1909-1998	
Améry, Jean, 1912-1978	Améry, Jean	, 1912-1978
Amin, Samir, 1931-	Amin, Samir	, 1931-
Amis, Kingsley, 1922-1995	Amis, Kingsley	, 1922-1995
Andersen, Hans Christian, 1805-1875	Andersen, H. C. (Hans Christian), 1805-1875	H. C. ()
Anderson, Sherwood, 1876-1941	Anderson, Sherwood, 1876-1941	
Andrzejewski, Jerzy	Andrzejewski, Jerzy, 1909-1983	, 1909-1983
Apollinaire, Guillaume, 1880-1918	Apollinaire, Guillaume, 1880-1918	
Aragon, Louis, 1897-1982	Aragon, Louis, 1897-1982	
Arendt, Hannah, 1906-1975	Arendt, Hannah, 1906-1975	
Aristophanes, 445?-385B. C. ?	Aristophanes	, 445?-385B. C. ?
Asimov, Isaac, 1920-1992	Asimov, Isaac, 1920-1992	
Athos, Anthony G	Athos, Anthony G.	. (ピリオド)
Austen, Jane, 1775-1817	Austen, Jane, 1775-1817	
Berg, Jan Hendrik van den, 1914-	Berg, J. H. van den (Jan Hendrik), 1914-	J. H. ()
Calhoun, Mary	Calhoun, Mary	
Carr, John Dickson, 1906-1977	Carr, John Dickson, 1906-1977	
Cassirer, Ernst, 1874-1945	Cassirer, Ernst, 1874-1945	
Curtis, Gerald L, 1940-	Curtis, Gerald L.	, 1940- . (ピリオド)
Eccles, John Carew, 1903-1997	Eccles, John C. (John Carew), 1903-1997	C. ()
Eckstein, Otto	Eckstein, Otto	
Eibl-Eibesfeldt, Irenäus, 1928-	Eibl-Eibesfeldt, Irenäus	, 1928-
Eichner, Alfred, S	Eichner, Alfred S.	. (ピリオド)
Eliade, Mircea, 1907-1986	Eliade, Mircea, 1907-1986	
Eliot, Thomas Stearns, 1888-1965	Eliot, T. S. (Thomas Stearns), 1888-1965	T. S. ()
Éluard, Paul, 1895-1952	Éluard, Paul, 1895-1952	É
Ende, Michael, 1929-1995	Ende, Michael	, 1929-1995
Engels, Friedrich, 1820-1895	Engels, Friedrich, 1820-1895	
Enzensberger, Hans Magnus, 1929-	Enzensberger, Hans Magnus	, 1929-
Erikson, Erik Homburger, 1902-1994	Erikson, Erik H. (Erik Homburger), 1902-1994	H. ()
Etzioni, Amitai, 1929-	Etzioni, Amitai	, 1929-
Evans, Richard Isadore, 1922-	Evans, Richard Isadore, 1922-	
Evslin, Bernard, 1922-1993	Evslin, Bernard	, 1922-1993
Ey, Henri, 1900-1977	Ey, Henri, 1900-	
Gág, Wanda, 1893-1946	Gág, Wanda, 1893-1946	
Ganong, William F, 1940-	Ganong, William F.	, 1940- . (ピリオド)

国立国会図書館	米国議会図書館	差異
García Márquez, Gabriel, 1928-	García Márquez, Gabriel, 1928-	
Gardner, Erle Stanley, 1889-1970	Gardner, Erle Stanley, 1889-1970	
Gardner, Martin, 1914-	Gardner, Martin, 1914-2010	-2010
Gardner, Richard A, 1931-	Gardner, Richard A.	, 1931- . (ピリオド)
Hécaen, Henri, 1912-	Hécaen, Henry, 1912-1983	
Ibsen, Henrik, 1828-1906	Ibsen, Henrik, 1828-1906	
Irving, Washington, 1783-1859	Irving, Washington, 1783-1859	
Jespersen, Otto, 1860-1943	Jespersen, Otto, 1860-1943	
Kant, Immanuel, 1724-1804	Kant, Immanuel, 1724-1804	
Kardelj, Edvard, 1910-	Kardelj, Edvard, 1910-1979	-1979
Kayser, Wolfgang Johannes, 1906-1960	Kayser, Wolfgang Johannes, 1906-1960.	, (カンマ)
Kazantzakes, Nikos, 1883-1957	Kazantzakis, Nikos, 1883-1957	Kazantzakes
Kierkegaard, Søren Aabye, 1813-1855	Kierkegaard, Søren, 1813-1855	Aabye
Kipling, Rudyard, 1865-1936	Kipling, Rudyard, 1865-1936	
Kissinger, Henry Alfred, 1923-	Kissinger, Henry, 1923-	Alfred
Kittel, Charles	Kittel, Charles	
O'Connor, Flannery, 1925-1964	O'Connor, Flannery	, 1925-1964
O'Neill, Eugene Gladstone, 1888-1953	O'Neill, Eugene, 1888-1953	Gladstone
Ortega y Gasset, José, 1883-1955	Ortega y Gasset, José, 1883-1955	
Orwell, George, 1903-1950	Orwell, George, 1903-1950	
Osborn, Alexander Faickney, 1888-	Osborn, Alexander	Faickney, 1888-
Ostrovskii, Nikolai Alekseevich, 1904-1937	Ostrovskii, Nikolai	i i Alekseevich, 1904-1937
Ovchinnikov, Vsevolod Vladimirovich, 1926-	Ovchinnikov, Vsevolod Vladimirovich	, 1926-
Updike, John, 1932-	Updike, John	, 1932-
Valéry, Paul Ambroise, 1871-1945	Valéry, Paul, 1871-1945	Ambroise
Van der Post, Laurens, 1906-1996	Van der Post, Laurens	, 1906-1996
Venturi, Franco, 1914-	Venturi, Franco	, 1914-
Verlaine, Paul Marie, 1844-1896	Verlaine, Paul, 1844-1896	Marie
Verne, Jules, 1828-1905	Verne, Jules, 1828-1905	
Vidal, Gore, 1925-	Vidal, Gore, 1925-	
Vogel, Ezra F, 1930-	Vogel, Ezra F.	, 1930- . (ピリオド)
Vonnegut, Kurt, 1922-2007	Vonnegut, Kurt	, 1922-2007
Vygotskii, Lev Semenovich, 1896-1934	Vygotskii, L. S. (Lev Semenovich), 1896-1934	i L. S. ()
Waite, Mitchell	Waite, Mitchell	
Wallon, Henri, 1879-1962	Wallon, Henri, 1879-1962	
Walton, Izaak, 1593-1683	Walton, Izaak, 1593-1683	
Waugh, Evelyn, 1903-1966	Waugh, Evelyn, 1903-1966	
Weber, Max, 1864-1920	Weber, Max, 1864-1920	
Wehler, Hans Ulrich, 1931-	Wehler, Hans Ulrich	, 1931-
Weizsäcker, Carl Friedrich, Freiherr von, 1912-2007	Weizsäcker, Carl Friedrich, Freiherr von, 1912-2007	
Wells, Herbert George, 1866-1946	Wells, H. G. (Herbert George), 1866-1946	H. G. ()
Whymper, Edward, 1840-1911	Whymper, Edward, 1840-1911	
Wickramasinghe, Nalin Chandra, 1939-	Wickramasinghe, N. C. (Nalin Chandra), 1939-	N. C. ()
Williams, Tennessee, 1911-1983	Williams, Tennessee, 1911-1983	
Williams, Trevor Illtyd	Williams, Trevor Illtyd	

国立国会図書館	米国議会図書館	差異
Williams, Trevor Illyd	Williams, Trevor Illyd	
Williamson, Oliver E, 1931-	Williamson, Oliver E.	, 1931- . (ピリオド)
Wilson, Bryan R, 1926-	Wilson, Bryan R.	, 1926- . (ピリオド)
Wilson, Colin, 1931-	Wilson, Colin, 1931-	
Wittgenstein, Ludwig, 1889-1951	Wittgenstein, Ludwig, 1889-1951	
Wittig, Monique	Wittig, Monique	
Wood, Adrian	Wood, Adrian	
Wouk, Herman, 1915-	Wouk, Herman, 1915-	
Wyndham, John, 1903-1969	Wyndham, John, 1903-1969	
Wyss, Johann David, 1743-1818	Wyss, Johann David, 1743-1818	
Yates, Frances Amelia, 1899-1981	Yates, Frances Amelia	, 1899-1981
Yeats, William Butler, 1865-1939	Yeats, W. B. (William Butler), 1865-1939	W. B. ()